

当館所蔵の扇風機及び関係資料について

松井 かおる*

目次

- はじめに
1. 電気扇風機以外の扇風機
2. 電気扇風機
3. 扇風機関係資料
おわりに

キーワード 電気扇 扇風機 赤木コレクション 山口喜三郎 エトラ扇

はじめに

江戸東京博物館では、近現代の生活を物語る資料として、多くの家庭電化製品を収蔵している。本稿ではこのうち、電気扇風機についての収蔵状況を検討する。なお、所蔵資料リストには扇風機の変遷をたどる資料（ベルト式、ゼンマイ式、直流電池式等）も集成して表1とした。また、扇風機台、変電機、各メーカーのパンフレットなど電気扇風機に関連資料を集めて表2とした。さらに、表1、表2に対応する図版及び参考図版を巻末に付した。

以下、表1のうち、電気扇風機以外の資料、電気扇風機の順に検討し、その後、表2の電気扇風機関連資料を検討する。本文中の番号は表1及び表2の番号を示す。

1. 電気扇風機以外の扇風機

表1の1、2はベルトの回転を動力とするタイプ。1は回転軸の先に団扇4枚を差し込み、回転により風を起こす。日本における扇風機のルーツともいえる資料である。赤木コレクション¹⁾には6枚団扇の手動扇を描く歌川国貞（後に三代豊国）の錦絵もある（口絵19）。柳亭種彦作、国貞画『修紫田舎源氏』七下巻にも同様の挿絵が見られる。2は3枚羽根でベルトをかける輪の部分が大きくなっている。

3、4はゼンマイによる動力で柄を差し込んだ団扇を動かす機械。取扱説明書（図版1-3(3)）によれば、するめ（ぜんまいバネ）を左に15、6回巻き、団扇の柄を側面の穴にさし込み、金物（ストッパー：図版1-3(4)）を引き出して団扇を上下に動かす。1とは原理は違うが、先述した手動扇風機の絵からの連想で団扇を自動的に動かす機械の代名詞として「豊国」の名が特許出願に使われたのかも

*東京都江戸東京博物館学芸員

知れない。5は2枚羽根、6は4枚羽根をゼンマイによる動力で回転させる。

7はアルコールランプを燃焼させた温度変化による空気膨張を利用し、ピストンを動かす珍しいタイプ。8～12は直流電池式。交流による発電・送電が主流となる以前の製品。7から12は9を除いてすべて4枚羽根で、ほぼ同じ形態。ガードは粗く放射状のデザインとなっている。

44～46はグリップを握ることによってバネの力で羽根を回転させる手動式携帯扇風機。ガードもついている。平野論文によれば、同様の構造で、三枚羽根、ガードなしの「軽便涼風器」が1906年（明治39）に特許を取得している。47、48はボタンを押すとバネの力で羽根が回る、小型携帯扇風機。羽根は可動で、使わないときは羽根を揃えて収納することができる。48は手作りの収納袋が付属している。44、47は赤木コレクション。扇風機の珍品として研究者が収集したものだが、45、46、48は一般の寄贈資料に含まれていた点が興味深い。

2. 電気扇風機

表1の13は京都の草川電機製作所製。波型放射線ガードの上に金網ガード²⁾をつけている。図版1-13(2)をみると、本体中央部には後述の15に類似した書体のロゴがみられる。また、金網ガードの中心部が菊文の凝った作りになっている。草川電機製作所は1907年（明治40）、電気機器や室内電灯装飾品の製作、並びに電灯、動力の据え付け工事を行う会社として創業したが、1909年（明治42）、配線用電気器具専門業者に移行した。14は日立製作所が1926年（昭和元）に製作し、輸出第一号となった製品と同型。波型放射線ガードの上に金網ガードをつけている。また14は、日立製作所の1937年（昭和12）カタログ（表2-12）に掲載されている30cm黒色標準型とは4枚羽根・本体とも形状が異なる。

15はアメリカのGeneral Electric社（以下GE）製。古河鉱業常務から東京電気に転じて1927年（昭和2）社長となり、1939年（昭和14）、芝浦製作所と合併して東京芝浦電気を設立した山口喜三郎氏の遺族から寄贈された資料。芝浦製作所は1909年（明治42）、GEと協定を締結し、最先端の技術を導入できるようになり、1916年（大正5）、電気扇風機の製造・販売を開始した。16～19はボディの形状、波型放射線のガード、中央部のロゴなど、15のGE製とよく似ている。16、17は型番のプレートが正面にあり、18、19は脇につけられている。18には電灯のソケットに装着した二股ソケット（二灯用クラスター³⁾から受電するためのアタッチメント・プラグが付属している。16～18は標準サイズの直径12インチ（30.48cm）で、19は小型の6インチ（15.24cm）。芝浦製造所の1927年（昭和2）カタログ（表2-10）を見ると、9インチの製品はGEと全く同形のガードを採用している。6インチは当館所蔵のものと同外見上は同じである。12インチ、15インチは直線放射線と曲線を合わせた目の細かいガードが採用されている。この形状のガードの製品は当館の所蔵資料にはなく、一般にもあまり見かけない。20～26は戦後「水連」とよばれた⁴⁾芝浦製作所の扇風機のうちもっとも一般に知られている製品。芝浦製作所の扇風機広告写真（表2-11）にはこの製品が掲載されている。16～19とともに、現在でもレトロイメージのインテリアとして需要が高く、ブログなどでもいくつか紹介されている。20～23は型番プレートに「Utility Model(標準形)」と記されている。こうした標記は16～19には見られず、先述のカタログにも

見られない。24、25は東芝科学館によれば、高能率型で、標準型の大型（19インチ＝48.26cm）より効率が良い製品。この2点は15と同様、山口喜三郎氏が旧蔵していた資料である。本体の下に円盤型の台座が付けられている。これが高能率型の標準装備であるのか否かは不明。色も黒ではなく、ブロンズ色でガードの奥行きも大きい。26は標準型の19インチ。東京芝浦電気株式会社となった1939年（昭和14）以降、戦後の一時期まで芝浦製作所のプレートのままこれらの製品が流通しているため、販売時期・流通時期の特定は難しい。

27は川崎重工業の前身、川崎造船所製。1930年（昭和5）8月27日付の神戸新聞によれば、左右だけでなく前後にも首がふれる「オルビットファン」のライセンスをイギリスの会社より譲り受け、製作全般を研究し、1928年（昭和3）より市販したもの。1930年（昭和5）には県下の有良国産品と認定され、「川崎型」を名乗って国内のみならず、東南洋から北中米の国への輸出にも力を入れた。記事の写真は天井扇。1937（昭和12）には布引製造所に製造権を譲渡した。27は「川崎型」ではなく「オルビット型」と記されていることから、1930年より以前の製品と考えられる。山口喜三郎氏旧蔵資料。

28、29は富士電機製造製。平野（2008）によれば、1923年（大正12）、古河電工とドイツのシーメンス社が合名出資により、それぞれの頭文字を社名とした富士電機製造を設立し、扇風機製造の分野にも進出した。28は4枚羽根の標準型。29は3枚羽根のパーソナル扇。30は戦前の三菱電機製。同社電気扇チラシ（表2-13）に掲載されている扇風機と同型のものと思われる。三菱電機の公式サイトによれば、1921年（大正10）、三菱電機は電気扇風機製造・販売に参入、1923年までに約1万台生産した。平野（2008）によれば、ウエスチングハウス社（米国）から1930年（昭和5）頃、技術供与を受けている。31はエトラ扇⁵⁾をいち早く採用した三菱電機製品。ガードの形態は30と同型だが、戦前機種には珍しくクリーム色である。31の製品プレートの上には、エトラ扇の特許番号（112712）のプレートが付されている（参考図版3参照）。32、33は戦後の三菱電機製品で、いずれもエトラ扇が採用されている。前者はガードも含めて戦前機種のデザインをほぼ踏襲しているのに対し、後者はガードのデザインが一新され、本体も流線型に変わっている。製品プレートも英字・数字標記で戦前のもとは異なる（参考図版4参照）。

34～36は東芝の戦後製品。いずれも4枚羽根。設計時中心がとりやすく、製造時においてズレが発生しても偏回転が起りにくい3枚羽根が主流となった戦後、東芝は、国産第一号の扇風機製造メーカーとしてのこだわりから、あえて4枚羽根の製品を発売し続けた。34は全体が鮮やかな青色のペンキで塗られ、型番が記載されたプレートも塗りつぶされていたが、羽根やガードの形状から、「ひまわり」の愛称で親しまれた製品と思われる⁶⁾。当館所蔵扇風機の大半は卓上扇だが、36は首が伸縮するお座敷扇。また、卓上扇では本体のレバーで操作していた風量コントロールを本体前面のピアノキーで操作する⁷⁾。タイマーも搭載されている。

37～39は日立製作所の戦後製品。37は1953年（昭和28）6月発行の「主婦の友」の通信販売広告ページに掲載されている日立扇風機と同型と思われる。39は洋間用のスタンド扇。40は富士電機製造のお座敷扇。戦前からの「サイレントファン」のネーミングを継承している。41は現時点ではメーカーが不明の製品。ピアノキー式であることから、昭和30年代から40年代の製品と思われる。42は回転しないパーソナル扇で、当館所蔵のうちもっとも新しい製品。43はARVIN社（米）の電気扇風機兼コイル式電気

ストーブ。背面のスイッチで切り替える。

49～52は天井扇。50は照明器具も兼ねたもの。51、52は戦後の東京芝浦電気製で、後者は卓上用の機種を天井吊り下げ形にしたもので首振り機能もついている。

3. 扇風機関連資料

表2の1は芝浦製作所製の電気扇風機(表1-18)の収納箱。江戸時代以来の道具箱の体裁で作られている。2は日立製作所製の電気扇風機(表1-14)の収納箱兼扇風機台。箱の造りは蝶番を用いた近代式。3～6は扇風機台。高さはいずれも26cm前後で、和室で卓上式扇風機を載せると風が快適に行渡る高さとなっている。3は常設展示東京ゾーンに移築復元した和洋折衷住宅の和室で移築以前に使われていたもの。踏み台と類似した造り。上面の板のくぼみに扇風機本体をはめ込む。側面には更紗が張りこまれており、和室のインテリアとしても機能している。4は芝浦製作所製の電気扇風機(表1-22)の扇風機台。木工製品で上部の円盤が回転する。青ペンキで全体が着彩されていたようだが、扇風機を載せていた上部の円盤以外は色落ちしている。5、6は江戸東京たてももの園に移築復元された三井邸で使われていたもの。いずれも木工製品で、5は上部の円盤が回転する。7は電気扇風機の回転数調整等のために使われる変圧器。8は交流電圧、電流を無段階に調整する装置で、電源の制御、モーターの速度制御などに用いる。

9(口絵19)は三枚続きの一枚。当館所蔵の団扇4枚式とは異なる6枚式。10は1927年(昭和2)の芝浦電気扇のパンフレットで、定価を見ると、直径16インチが45円、以下12インチが32円、9インチが18円、6インチが15円とかなり高価である。いずれも電灯用ソケットと接続するアタッチメントがみられる。表紙には洋間のソファに座る和装の女性の絵がカラーで掲載されている。11は戦前の芝浦電気扇の広告写真。電気扇風機をモーターボートに見立てた斬新なデザイン。12は1937年(昭和12)の日立電気扇のパンフレットで、4枚羽根の製品を標準形とし、3枚羽根の製品も2タイプ(本体が流線形のもの羽根が幅広のもの)掲載しており、定価は載せていない。13は三菱電機扇のパンフレットで、外観、風量、音の静かさなど製品の特長を文章で示している。表紙は白布を掛けた台に載せた電気扇と11と洋装の女性が描かれている。

おわりに

扇風機の総数52点のうち電気扇風機以外の資料は16点で、このうち赤木コレクションが13点を占める。団扇を組み込んだ手動扇、携帯扇風機、交流式電力普及以前の直流電池式扇風機、アルコールランプ式扇風機など、扇風機の変遷を示す特徴的な資料が多く、興味深い。電気扇風機は36点で、このうち卓上扇29点、首が伸縮するお座敷扇2点、洋間用のスタンド扇1点、天井扇4点を数える。また、電気扇風機のうち輸入品は表1-15及び1-43の2点であとはすべて国産である。メーカーとしては芝浦製作所製が圧倒的に多く、そのほか日立製作所、三菱電機、富士電機、東京芝浦電気、松下電工、草川電機製作

所、川崎造船所の製品があった。

また、関連資料として扇風機収納箱、扇風機台、変圧器、調整器、収蔵している電気扇風機に関連する絵画資料やカタログ類も確認することができた。

次の機会には、今年度行った扇風機の特集展示及びその折に製作した江戸時代から現代に至る家庭における電気使用量の変遷を示すパネルについて報告したい。また、明治・大正・昭和を通じて、人々がどのように扇風機を製作し、使用してきたかについて調査し、当館所蔵資料との関わりを紹介したい。

本稿作成の多くを平野聖氏の論文によりました。また、東芝科学館荘司金秋氏に芝浦製作所製品について多くのご教示をいただきましたことを感謝いたします。

【註】

- 1) 赤木コレクションとは、照明器具、測量器具をはじめさまざまな近世・近代の科学技術資料を集めて研究されていた赤木清士氏旧蔵の資料群である。当館では平成19年度に当該コレクションの資料目録を調査報告第19集として刊行している。
- 2) 平野（2008）によれば、1910年代半ばから1920年代にかけて、扇風機を百貨店に設置していたところ、ガードが粗いため、乳幼児が手を入れてけがをする事故が発生した。また、設置した家庭でも着物の裾や袖が巻き込まれたり、紙片や紐が羽根にひっかかる事故が多発したため、別売りの金網ガードを後付けすることが推奨された。同論文には、1915年（大正4）8月発行の三越呉服店会報『三越』の裏表紙に、金網ガードをかけたGEの電気扇風機が掲載されていることが紹介されている。日立製作所が昨年7月に開催した創業100周年記念の特別展示「日立グループ100年の歩み」で展示された当館所蔵資料と同型の扇風機にも当館所蔵資料同様、金網ガードが装着されていた。昭和初期になると別売りとはいえ標準装備していた可能性もある。
- 3) 電気の供給口が電灯のソケットしかなかった時代に、電灯と電化製品を同時に使用できるようにした器具。巻末の参考図版1、2は当館所蔵の二股ソケット。
- 4) 東芝科学館によれば、東芝では1949年（昭和24）以降、扇風機に植物のサブネームをつけるようになったという。
- 5) 平野（2008）によれば、1935年（昭和10）に出願された、特許12712号「噪音少キ扇風翼」、エトラ扇は、従来の羽根に比較して低速回転でも多くの風量が得られ、モーターの回転音、羽根の風切り音等の騒音を著しく減少できるという。また、従来の羽根に比べて幅広ですきまが少ないことや低速回転のため、安全性も高まった。1953年（昭和28）、三菱電機によってプラスチック製のエトラ扇を搭載した扇風機が発売されたことを社史から紹介している。
- 6) 東芝科学館にも写真で確認済み。
- 7) 1963年（昭和38）「暮らしの手帖 第70号」の特集記事「扇風機をテストする」に掲載されている9ブランド（シャープ、ゼネラル、サンヨー、NEC、三菱、富士、日立、ナショナル、東芝）の大半がピアノキー式を採用している。社団法人日本電機工業会によれば、1968年（昭和43）、押しボタンスイッチ（ピアノキー式操作盤）に代わる電子スイッチが開発され、タッチプレート式が登場した。

参考文献

- 2007 東京都江戸東京博物館都市歴史研究室『東京都江戸東京博物館調査報告書第19集 江戸東京のモノづくり 科学技術黎明期資料－赤木コレクション』東京都 財団法人東京都歴史文化財団
- 2008 平野聖「我が国における家庭用電気扇風機のアデザインの遷移に関する研究」九州大学芸術工学研究院
- 2008 平野聖・石村眞一「大正・昭和前期における扇風機の発達」『第4回国際シンポジウム 日本の技術革新－理工系における技術史研究－ 講演集・研究論文発表会論文集』独立行政法人国立科学博物館
- 2009 平野聖「昭和後期における扇風機の発達－「松下精工」に見る製品開発事例研究－」『川崎医療福祉学会誌 vol.19 No.1』川崎医療福祉大学

【表1】 当館所蔵扇風機一覧

No.	資料番号	資料名	時代年代	メーカー	法量 (奥行*幅*高さ)	入手先	特徴
1	90361201	手動扇風機	幕末から明治初期		28.0*59.2*68.5	赤木コレクション	団扇4枚を回転軸に差し込み、ベルト回転の動力を利用
2	90361215	手動扇風機 (軽伝旋風機)	明治末期～大正期		18.5*35.0*73.0	赤木コレクション	「実用新案 第41601号 軽傳旋風器 新案登録出願」
3	90361203	ゼンマイ式団扇煽ぎ機	1887-1902年 (明治20-35)	自働発風舎/製 高木商店/発売	17.8*48.0*27.2	赤木コレクション	団扇1枚付属「自働豊國發風機」 「専売特許 出願受付番43159号」 蓋裏に取扱説明書有
4	90361204	ゼンマイ式団扇煽ぎ機	1887-1902年 (明治20-35)	杉田発風舎/発売元 神戸特約代理店 米 田商会/販売	17.5*50.0*29.0	赤木コレクション	団扇1枚付属「豊國発風機Tatt」 蓋裏に取扱説明書有
5	90361202	ゼンマイ式扇風機	1877-87年 (明治10-20)		20.5*23.0*42.3	赤木コレクション	「山田式自動扇」
6	90361205	ゼンマイ式扇風機 (自動扇風機)	1897年 (明治30)		41.5*40.3*108.5	赤木コレクション	医院で使用。一度ゼンマイを巻くと30分近く回り続ける。スタンドは後補。
7	90361206	アルコロールランプ式扇風機	1897年 (明治30)	松村金屬製作所	29.0*44.0*57.4	赤木コレクション	波型放射線ガード
8	90361207	電池式扇風機	[明治～大正]		20.0*28.2*40.0	赤木コレクション	直流電池式。波型放射線ガード
9	90361208	電池式扇風機	[1902年(明治35)]		14.3*25.8*38.0	赤木コレクション	直流電池式。3枚羽。波型放射線ガード
10	90361209	電池式扇風機	[明治～大正]		19.2*26.0*28.5	赤木コレクション	直流電池式 ◇にJ.K. OSAKA NIPPON
11	90361210	電池式扇風機	1906年 (明治39)	田中製作所	21.8*33.5*43.6	赤木コレクション	直流電池式。「大日本特許局新案特許 第1516号」放射線ガード
12	90361211	電池式扇風機 (紡績用工場扇横型)	1905年 (明治38)	芝浦製作所	7.6*9.5*10.5	赤木コレクション	直流電池式。明治38年、芝浦製作所は紡績用工場扇を米イリノ州JAXより直輸入。これはそのミニチュアで宣伝用に50台作られ、各社に贈られた。
13	90361212	電気扇風機	1907-09年 (明治40-42)	草川電機製作所	19.3*32.0*43.7	赤木コレクション	波型放射線ガード後付金網ガード付
14	88003077	電気扇風機	[1926年 (昭和元)]	日立製作所	18.0*33.5*40.5	田久保和子	波型放射線ガード。収納箱 (表2-2)、後付金網ガード付。日立製作所の輸出第一号となった製品。

No.	資料番号	資料名	時代年代	メーカー	法量 (奥行*幅*高さ)	入手先	特徴
15	88010608	電気扇風機	1901年（明治34）	GENERAL ELECTRIC（米）	28.0*33.0*45.0	山口襄	芝浦製作所の初期量産型扇風機の手本。波型放射線ガード
16	88005001	電気扇風機 C-2021	[大正期]	芝浦製作所	22.0*32.5*41.5	港東清掃事務所	波型放射線ガード コードつけかえ
17	97000998	電気扇風機 C-2011	[大正期]	芝浦製作所	21.0*33.5*41.5	三井八郎右衛門相続人代表三井高實	波型放射線ガード
18	90200193	電気扇風機 C-2020	[大正期]	芝浦製作所	17.0*33.5*41.0	購入	波型放射線ガード アタッチメント・プラグ付属
19	90361216	電気扇風機 C-2120	[大正期]	芝浦製作所	14.1*17.5*23.6	赤木コレクシオン	波型放射線ガード6インチ（小型）
20	87005052	電気扇風機 C-7032	[昭和初期～中期]	芝浦製作所	19.5*34.0*41.7	杉並東清掃事務所	標準型（Utility model）
21	88002584	電気扇風機 C-7032	[昭和初期～中期]	芝浦製作所	24.5*35.8*43.5	小川宙太	標準型 コードつけかえ
22	95002989	電気扇風機 C-7032	[昭和初期～中期]	芝浦製作所	23.0*34.0*42.5	平井莊一	標準型。回転台付（表2-4）
23	97000999	電気扇風機 C-7032	[昭和初期～中期]	芝浦製作所	22.0*34.5*44.5	三井八郎右衛門相続人代表三井高實	標準型。クリーム色。
24	88010605	電気扇風機 C-7067	[昭和初期～中期]	芝浦製作所	25.0*35.0*45.0	山口襄	高能率型。本体に台座装着。色：ブロンズ、厚みがある。
25	88010607	電気扇風機 C-7067	[昭和初期～中期]	芝浦製作所	25.0*35.0*45.0	山口襄	高能率型。表1-24と同型。
26	98003362	電気扇風機 C-7061	[昭和初期～中期]	芝浦製作所	22.0*46.0*52.5	丹慶徳	標準型19インチ
27	88010606	電気扇風機	[1930年（昭和5）ごろ]	川崎造船所	25.0*35.0*45.0	山口襄	神戸の川崎造船所で主に製造。天体遊行軌道を辿る回転が特徴のオルビット・ファン採用。
28	88003811	電気扇風機	[1933年（昭和8）]	富士電機製造株式会社	23.5*35.5*45.0	小野一成	1933年型 収納箱(段ボール)付
29	96007481	電気扇風機 サイレントファン	[昭和初期]	富士電機製造株式会社	31.2*44.5	瀧本喜代	3枚羽根のパーソナル扇。
30	87000239	電気扇風機	[昭和初期]	三菱電機株式会社	28.0*38.0*46.0	杉並東清掃事務所	表2-13パンフレット掲載製品と思われる。
31	96001063	電気扇風機	[1935年（昭和10）頃]	三菱電機株式会社	27.6*36.0*38.7	竹前弘子	カラー。エトラ扇採用
32	90005234	電気扇風機	[1945-47年（昭和20-22）]	三菱電機株式会社	23.0*35.5*43.0	榎本喜七	幅広3枚羽根。台流線型
33	95011331	電気扇風機	1952年（昭和27）	三菱電機株式会社	24.0*35.0*47.0	東京医科大学	カラー。台部分流線型。
34	96000524	電気扇風機	[昭和20年代]	東京芝浦電気株式会社	25.1*34.0*42.0	広瀬二郎	全体が青ペンキ塗装されており、型番確認できず「ガード、羽根の形から「ひまわり」と思われる
35	90005235	電気扇風機 L935481	[1958-60年（昭和33-35）]	東京芝浦電気株式会社	29.0*36.0*50.0	榎本喜七	「かいどう」。台部分流線型

No.	資料番号	資料名	時代年代	メーカー	法量 (奥行*幅*高さ)	入手先	特徴
36	*07002128	電気扇 風機 SF-30F クリスタルゼファー	1968年 (昭和43)	東京芝浦電気株式会社	33.0*37.5*72.0	中島茂男	「くじゃく草」。お座敷扇 (首伸縮)。 タイマー付。ピアノキース。
37	880005010	電気扇 風機	[1953年 (昭和28)]	日立製作所	23.5*34.0*43.0	板橋西清掃事務所	幅広4枚羽、カラー化。波型放射線 状ガード。
38	90002151	電気扇 風機 M-603613	1958年 (昭和33)	日立製作所	28.2*37.0*50.5	高岡清	幅広3枚羽
39	90007078	電気扇 風機 S-678	1965年 (昭和40)	日立製作所	38.0*35.0*108.0	石川好子	スタンダード型
40	96000525	電気扇 風機 サイレント ファン	[昭和30年代~40年代]	富士電機製造株式会社	23.8*37.0*76.7	広瀬二郎	お座敷扇 (首伸縮)。銀色塗装。
41	97000292	電気扇 風機	[昭和30年代から40年代]	(不明)	28.0*34.5*48.0	三井八郎右衛門相 続人代表三井高實	ピアノキース。
42	89001947	電気扇 風機 F-20A1E	1974年 (昭和49) 1977年 (昭和52)	松下電器産業	24.0*26.0*33.5	萩原紀子	パーソナル扇。
43	87000251	電気扇 風機 兼 電気ス トープ	[1960年代]	ARVIN (米)	28.0*31.0*39.0	竹谷吉智	
44	90361214	ハンンドグリップ式 手動 携帯扇 風機	[大正期]	相田	5.4*14.5*26.5	赤木コレクシヨン	「特許第10630号 相田製」ガード 付き
45	96007798	ハンンドグリップ式 手動 携帯扇 風機	[大正期]	相田	5.9*13.6*26.7	渡辺泰男	「特許第10630号 相田製」90361214 と同型
46	96007799	ハンンドグリップ式 手動 携帯扇 風機	[大正期]	相田	5.9*13.6*26.7	渡辺泰男	「特許第10630号 相田製」90361214 と同型
47	90361217	押しボタン式 手動 携帯 扇 風機	[大正期]		4.0*12.5*13.0	赤木コレクシヨン	ボタンを押すと羽根が回転する。羽 根はセルロイド製カ
48	94006813	押しボタン式 手動 携帯 扇 風機	[大正期]		3.4*11.7*12.2	鈴木カヨ	ボタンを押すと羽根が回転する。羽 根はセルロイド製カ (90361217と同 型) 袋付
49	90361213 90365247	天井扇	[明治期]		31.0*97.5*92.3	赤木コレクシヨン	90361213...支柱 90365247...羽根二枚組
50	90362657	シャンデリア 扇 風機 (電球付 天井扇)	大正末期~昭和初期	芝浦製作所	70.0*82.5	赤木コレクシヨン	交流 天井扇
51	91002870	天井扇	戦後	東京芝浦電気株式会社		宮川武夫	羽根と支柱分離 三枚羽 根カ
52	98003601	天井扇	[戦後]	東京芝浦電気株式会社	28.0*33.0	丹慶徳	

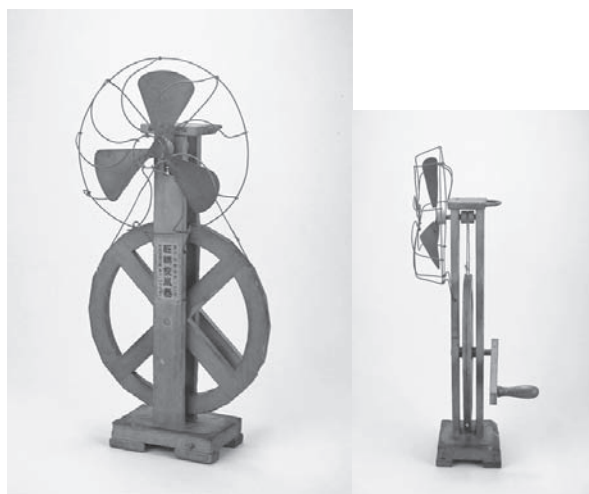
【表2】 当館所蔵扇風機関係資料リスト

No.	資料番号	資料名	時代年代	メーカー	入手先	特徴
1	90200193	電気扇風機収納箱	[戦前]		購入	表1-18の収納箱。内部の底板の中央部に扇風機の台座をはめ込むくぼみあり。また、底板は前方にずれる。
2	88003078	電気扇風機収納箱兼扇風機台	[戦前]		田久保和子	表1-14の収納箱兼台
3	89000457	扇風機台	[戦前]		福本収子	和洋折衷住宅で使用
4	95003007	扇風機台	[戦前]		平井荘一	表1-22の扇風機台（回転機能付）
5	97000475	扇風機台	[戦前]		三井八郎右衛門相続人代表三井高實	
6	97000476	扇風機台	[戦前]		三井八郎右衛門相続人代表三井高實	
7	90363051	扇風機用変圧器			赤木コレクション	
8	90363052	電気扇調整器（交流式）			赤木コレクション	
9	90364209	[手動扇風機錦絵]	[幕末]	歌川国貞／画	赤木コレクション	三枚続きの一枚
10	89206098	芝浦電気扇カタログ	1927年（昭和2）		購入	
11	89205507	芝浦電気扇広告写真	[昭和初期～中期]		購入	
12	89206027	日立電気扇カタログ	1937年（昭和12）5月		購入	
13	90364698	三菱電機扇チラシ	[戦前]		赤木コレクション	

【図版】



1-1 90361201 手動扇風機



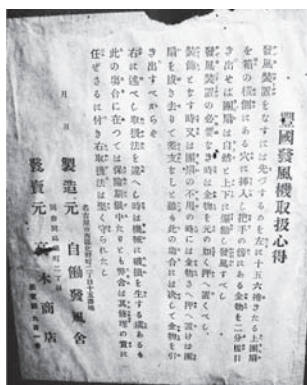
1-2 90361215 軽伝旋風機



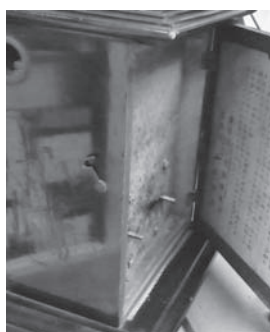
1-3 (1) 90361203 ゼンマイ式団扇煽ぎ機



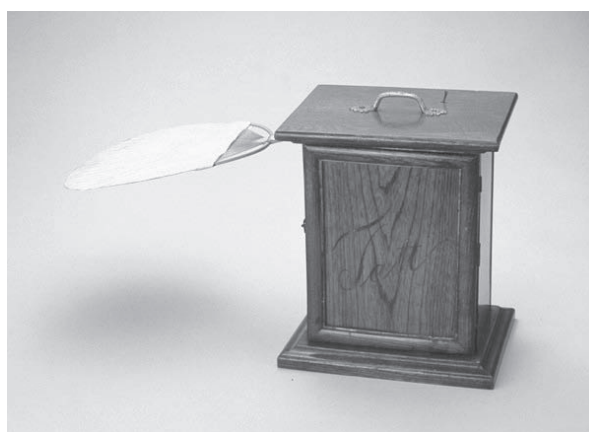
1-3 (2) 扉をあけた状態



1-3 (3) 取扱説明書



1-3 (4) ストッパー



1-4 90361204 ゼンマイ式団扇煽ぎ機



1-5 90361202 ゼンマイ式扇風機



1-6 90361205 ゼンマイ式扇風機



1-7 90361206 アルコールランプ式扇風機



1-8 90361207 電池式扇風機



1-9 90361208 電池式扇風機



1-10(1) 90361208 電池式扇風機



1-10(2) 背面



1-11 90361210 電池式扇風機



1-12 90361211 電池式扇風機



1-13(1) 90361212 電気扇風機 草川電機



1-13(2) 中央部



1-14 88003077 電気扇風機 日立製作所



1-15 88010608 電気扇風機
GENERALELECTRIC



1-16 88005011 電気扇風機 芝浦製作所



1-17 97000998 電気扇風機
芝浦製作所



1-18 90200193 同左



1-19 90361216 同左



1-20 87005052 電気扇風機
芝浦製作所



1-21 88002584 電気扇風機
同左



1-22 95002989 電気扇風機
芝浦製作所



1-23 97000999 電気扇風機
同左



1-24 88010605 電気扇風機 芝浦製作所



1-25 88010607 電気扇風機 芝浦製作所



1-26 98003362 電気扇風機 芝浦製作所



1-27 88010606 電気扇風機
川崎造船所



1-28 88003811 電気扇風機 富士電機製造



1-29 90007481 電気扇風機
富士電機製造



1-30 87000239 電気扇風機 三菱電機



1-31 96001063 電気扇風機 三菱電機



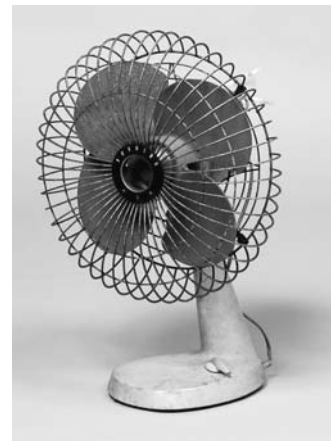
1-32 90005234 電気扇風機
三菱電機



1-33 95001331 電気扇風機
三菱電機



1-34 96000524 電気扇風機
東京芝浦電気



1-35 90005235 電気扇風機
東京芝浦電気



1-36 07002128 電気扇風機
東京芝浦電気



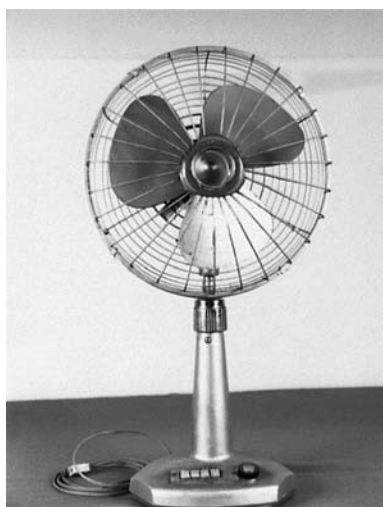
1-37 88005010 電気扇風機
日立製作所



1-38 90002151 電気扇風機
日立製作所



1-39 90007078 電気扇風機
日立製作所



1-40 96000525 電気扇風機
富士電機



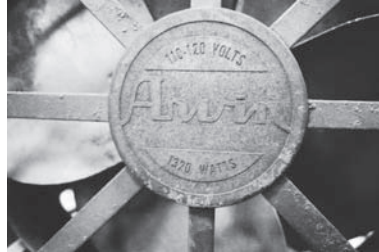
1-41 97000292 電気扇風機



1-42 89001947 電気扇風機
松下電器産業



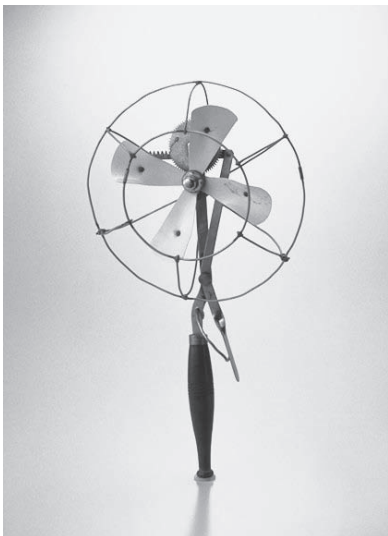
1-43(1) 87000251 電気扇風機
兼電気ストーブ
ARVIN



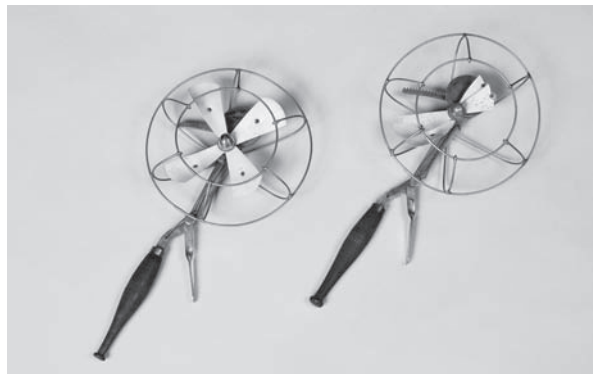
1-43(2) 中央部拡大



1-43(3) 背面切替スイッチ



1-44 90361214 ハンドグリップ
式扇風機



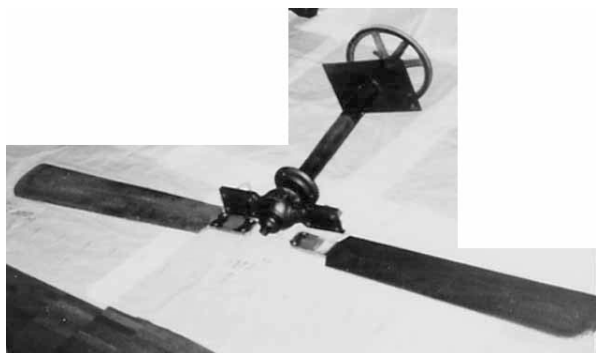
1-45、1-46 96007798,99 ハンドグリップ式



1-47 90361214 ゼンマイ(押しボタン)式
扇風機



1-48 94006813 ゼンマイ(押しボタン)式扇風機



1-49 90361213,5247 天井扇



1-50 90362657 シャンデリア扇風機 芝浦製作所



1-51 91002870 天井扇 東京芝浦電気



1-52 98003601 天井扇 東京芝浦電気



2-1 90200193 電気扇風機収納箱



2-2 88003078 電気扇風機収納箱



2-3 89000457 扇風機台



2-4 95003007 扇風機台



2-5 97000475 扇風機台



2-6 97000476 扇風機台



2-7 90363051 扇風機用変圧器



2-8 90363052 電気扇調整器(交流式)



昭和二年度
芝浦電気扇種類明細

型番	寸法	重量	電圧	消費電力
交流卓上用				
C-7006	8吋 普通型	100 110	50 60	
C-7007	12吋 普通型	100 110	50 60	
C-7018	16吋 普通型	100 110	50 60	
交流天井用				
C-7103	8吋 普通型	100 110	50	
C-7105	12吋 普通型	100 110	50	

以上各型電気扇にはサーモスタットが標準として付いており、天井用電気扇には×××××が標準として付いております。

昭和二年度
芝浦電気扇重量及び容積

寸法	重量	容積
交流卓上用		
8吋 普通型	21.5 × 27	2.44 1.09
12吋 普通型	55 × 49 × 30	16.7 11.2
16吋 普通型	53 × 24 × 36	6.3 3.44
12吋 普通型 (日産型)	39 × 26 × 44	11.0 8.5
16吋 普通型 (日産型)	48 × 32 × 56	15.0 11.0
交流天井用		
8吋 普通型	38 × 36 × 41	3.8 2.1
12吋 普通型	48 × 28 × 32	1.1 6

上の数字は概算と多少異なり、C-7103、C-7105は別記とせん。

芝浦の電気扇

永年の経験、新しい仕事振り、よりぬきの材料、精密な機械、大任掛けな推へ方、行き届いた検査と云ふ様にあらゆる調子が揃つて居ります。

60 吋 交流天井用電気扇 定価金百拾四圓

16 吋 普通型電気扇 定価金百拾五圓

12 吋 普通型電気扇 定価金百拾六圓

9 吋 普通型電気扇 定価金拾八圓

首振り型電気扇も標準に取付けてある

6 吋 卓上型電気扇 定価金拾六圓

すばらしい出来ばえの昭和二年度芝浦電気扇も御使用下さい。
電気扇に新しい思ひをきかせると云ふだけのものではなから、室内用或は卓上・天井用と大はな数を有して居ります。
従つて、電気扇も備へつけると云ふことは、単に夏の暑さを避けて云ふだけのことでなく、自給も社給にすること、仕事の間中もよくすること等の點から考へても大なる意味を有して居ります。
而して小さい9吋から大きい60吋迄の種々な芝浦電気扇以上の様な目的に對して充分御満足な御供へることが出来ませう。

2-10 89206098 芝浦電気扇パンフレット 1927年(昭和2)



2-11 89200007 芝浦電気扇広告写真



2-12 89206027 日立電気扇パンフレット 1937年(昭和12)



2-13 90364698 三菱扇パンフレット



参考図版 1 98003411 プラグ受け付
二股ソケット



参考図版 2 89003075 プラグ受け付ソケット



参考図版 3 1-31 電器扇風機(三菱電機社製)プレート



参考図版 4 1-33 電器扇風機(三菱電機社製)プレート